BALL TEST DATA

【セールス資料】

2021 年 5 月 18 日

BALL NAME:　RSTX-2

COLOR:TANZANITE

WEIGHTBLOCK : RST CORE（新形状コア）

COVER STOCK:E TRAX™ PLUS PEARL REACTIVE

RG : 2.53　⊿RG:0.053　ID:0.016

FACTORYFINISH:1500ABRALON

TRACKFLAREPOTENTIAL:4-5

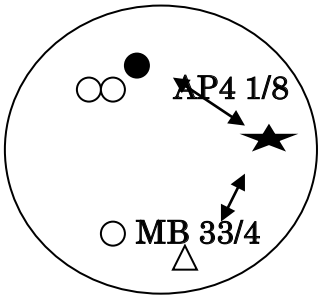
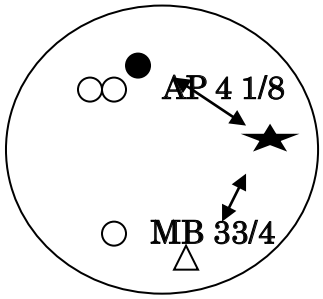
BACK END:15 (1－20) MAX　LENGTH : 16 (1-20)

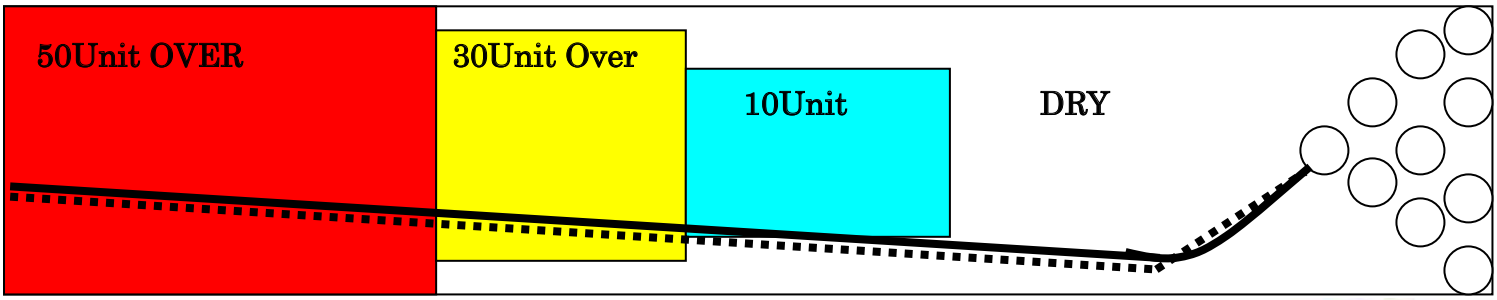
O	LONG			
I	MEDIUM	◎	●	
L	SHORT		◎	
		Light	Medium	Heavy

適正レーンコンディショングラフ

【ミディアムレーン 編】

レイアウト例

	RST-1 SQUAD	RSTX-2
		
	CA55 度	CA55 度
ﾌﾚｱｰ幅	最大 63/4・間隔 1/8	最大 6 3/4・



0F　　15F　　40F

比較品ライン　RSTX-2　RST-X1 SQUAD

【レーン状況】ﾍﾞｰｽｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝはｹｰｹﾞﾙﾏｼﾝでの通常ﾒﾝﾃﾅﾝｽ、オイル量のあまり多く無い 21ml と長く感じるｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝです

【製品比較表】

曲がり度	1	2	△3	4	5
スキッド	1	2	△3	4	5
ﾋﾟﾝｱｸｼｮﾝ	1	2	3	4	△5

曲がり方	ｱｰｸ	1	2	△3	4	5 ｼｬｰﾌﾟ
ｵｲﾙの強さ		1	2	△3	4	5

テスト品 ○　比較品 △

＊上記の数字は、1 側が少ない(短い・弱い)　5 側が強い(大きい・長い)

【ボール総合評価】

ロトグリップのシリーズは基本「投げ易さ」が特徴ですが、RST シリーズにおいてもそのコンセプトは同様で前作 RSTX-1 ｽｸﾜｯﾄﾞがレーン手前からの走りが良くブレークポイントから切れる事なくスムーズ差を維持する仕様でしたが、今回も基本的な動きは同じでオイル量の多いｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝでも手前の直線的な動きに加え軸移動も見え易い投球ﾗｲﾝが描けます、ポイントはやはり投げ易さが売りのボールです。

【石原プロの使い方と性能説明】

レーン手前の直進性を増す為に通常パール素材を用いる事は多いのですが、ROTO の基本ｺﾝｾﾌﾟﾄに投げ易さに拘りを求めた時には、ﾚｰﾝﾄﾞﾗｲ部分での過度な摩擦力を加えると「跳ね返り」が強くﾊﾞｯｸｴﾝﾄﾞでのｺﾝﾄﾛｰﾙ性能を失います、ﾋﾟﾝを飛ばす為に入射角度を出すと言う考え方には賛否両論あり、コア性能を高める事でそれを補います、今回の様に「走り・ｽﾄﾛﾝｸﾞｱｰｸ」というﾎﾞｰﾙは市場には余り多くありませんので、ﾄﾞﾗｲが強いﾚｰﾝには最適です

2021 年 9 月販売予定　テスト協力：川崎ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾞｳﾙ　テスター：石原　章夫プロ(11 期)